

① 玉湯まがたま学園の完成校舎視察に行ってきました！

令和3年3月16日(火)に松江市玉湯町に新たに建設された玉湯まがたま学園の視察に行ってきました。玉湯まがたま学園は現在の玉湯中学校の敷地内に、現在ある3小学校を統合した小学校と幼稚園・児童クラブを一体的に整備した学園です。幼稚園から中学校まで一貫した教育が可能であり、校舎には松江市産材をはじめとした地域材が多く使われています。

校舎と幼稚園舎は木構造で施工され、大部分が松江市産材と島根県産材を使用しています。このため木材の調達に相当の時間を要することが見込まれたため、松江市は工事と木材の調達を別々に行う「分離発注方式」を採用されました。

小学校の玄関ホールにある大きな3本の柱は玉湯町で生産された木材で、校舎のシンボルとなっています。また音楽室や廊下の天井の一部には益田市で生産・加工された木材が使用されています。教室や廊下など全ての部屋から木のぬくもりが感じられました。

また、幼稚園舎は在来木造工法で作られており、柱には無垢材が使用されています。体育館の天井部分の梁も無垢材が使用され、木の良さが見える形でデザインされています。

これだけの木材を使用しているの、設計と準備で大変な労力と時間を要したと思いますが、本校舎で学ぶ多くの園児や生徒が毎日木にふれあうことができる最高の環境が整備されていると思いました。

視察当日に撮影した学園紹介動画を高津川流域林業活性化センターが下記のyoutubeチャンネルで公開されていますのでどうぞ視聴下さい！

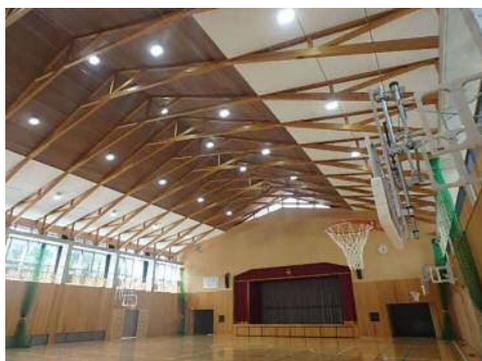
<https://www.youtube.com/channel/UCzYDRcjLThK7ZhNbKHAS1sg>



小学校校舎 玄関ホール



幼稚園・児童クラブ外観



体育館 内装

② 天皇陛下お手植え木「コウヤマキ」苗木の出発式が開催されました！

令和3年4月10日(土)に鹿足郡吉賀町において、第71回全国植樹祭50日前イベントとして天皇陛下お手植え木「コウヤマキ」苗木の出発式が開催されました。当イベントは、コウヤマキ生産者の会と第71回全国植樹祭島根県実行委員会の共催で行い、当日は50名を超える参加者で賑わいました。

第71回全国植樹祭での天皇陛下によるお手植え木は、本県の森林にゆかりのあるスギとコウヤマキの2樹種が選定されました。この2樹種は、スサノオノミコトが体毛を抜いて木に変えたという神話の伝承樹種です。また、コウヤマキは吉賀町六日市に山陰地方唯一の自生林があり、吉賀町で熱心に生産に取り組まれている生産者から是非全国植樹祭に苗木を提供したいとの申し出があり、吉賀町のコウヤマキが苗木として選定されました。

式典では、知事や県議会議員による挨拶のほか、苗木生産者による活動の発表や苗木の積み込みなどが行われました。生産者は苗木の生産から出荷までの報告や、吉賀町のコウヤマキが天皇陛下お手植え木として選定されたことへの喜びなどを話されていました。

苗木を積み込んだトラックを背景に、知事と参加者との記念撮影も行われ、植樹祭に向けて機運が高められました。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



知事と苗木生産者



苗木を載せて出発する軽トラック

① 益田高校の3年生が林業機械(ハーベスタ)のシミュレーターを体験しました！

5月17日(月)に益田高校で3年生8名を対象に「森と林業についての学習&林業機械シミュレーター体験」を開催しました。今回の授業は、今年生徒が課題研究で取り組む木製イスの製作に向けて、材料の木材を生産している森林や林業の仕事を学ぶ目的で開催しました。

前半の森と林業についての学習では島根県の森林の現況や、下刈り・間伐などの保育作業を学びました。現場で使うチェーンソーを実際に手に持った生徒からは、重さに驚く声が聞かれました。

後半では、生徒がスウェーデン製のハーベスタシミュレーターを使用した操作体験をしました。このシミュレーターでは実機のように手元の操作レバーやボタンを押して動かすことで、モニター上で伐採・造材・枝払いを体験することができます。また、VR(仮想現実)機能もあり、体験した生徒からは、今までこんなに大きな機械が山で作業をしていることを知らなかったとの意見がありました。

今回の体験が森林や林業について興味を持つきっかけとなれば主催者として幸いです。



森と森林の授業の様子



シミュレーターを操作する生徒

② 鎌手鳥獣保護区の更新説明会を開催しました！

5月18日(火)に益田市の鎌手公民館にて、鎌手鳥獣保護区の更新説明会を開催しました。

鳥獣保護区は鳥獣の保護を図るため、必要があると認められた地域に指定するものですが、鎌手鳥獣保護区は、その中でも「身近な鳥獣生息地の保護区」に指定されています。豊かな生活環境の形成や、自然との触れ合いもしくは鳥獣の観察や保護活動を通じた環境教育の場を確保することを目的として指定されています。

説明会では、保護区が含まれる地区の代表者や益田市の担当者など、関係する方々に参加していただき、説明と質疑応答の後、鳥獣保護区の更新について承認を得ました。質疑応答では、鳥獣保護区内でも有害捕獲ができることなどについて説明しました。

今後とも、鳥獣の保護・管理に関する啓発等に努めていきます。



説明会の様子

①益田市美都町三谷・小原地域において、イノシシ対策研修会を開催しました！

令和3年6月12日（土）に、東仙道公民館において「イノシシから集落を守ろう！イノシシ対策研修会」が開催され、西部農林水産振興センター益田事務所の鳥獣担当が講師を務めました。当日は、12名の地域住民の方々に参加頂きました。研修会では、本地域で被害が目立つイノシシに焦点を絞り、基本的な生態や行動特性、対策技術について紹介しました。また、人里へのイノシシの侵入経路や柵の設置状況、イノシシを誘引してしまう果樹の位置などを地図に書き込むことで、現在の地域の状況を共有しました。研修の最後には、質疑応答や意見交換が活発に行われました。

現在当事務所では、「鳥獣被害ゼロ」を目指して鳥獣被害に強い集落をつくることに意欲のある集落・組織を、林業部と農業部が連携して直接支援しています。今回の研修会を契機とし、被害対策マップを作成して地域にフィードバックを行ったり、防護柵の効果的な設置等を推進することによって、地域住民が協力して農作物被害を軽減していけるよう支援を実施していきます。



研修会の様子



イノシシの情報を地図に書き込む様子

②益田高校の3年生が県産材を使用した木の椅子を製作しました！

益田高校の3年生3名の生徒が、林業教育事業の一環で地域の木工会社の協力を得て製作していた木製椅子12脚がこのほど完成しました。椅子には全て県産材が使われており、座面はスギ、脚部分はマツでできています。

生徒自身が木工会社の方から指導を受け、設計から製材、組み立て、塗装まで一連の作業を行いました。完成した椅子は、高さが20cmほどで重ね合わせることで自由に高さを調整することができます。椅子は学校の渡り廊下に設置され、生徒が座って休憩したり談笑をするために利用されます。

椅子は最終的に30脚程度製作する予定で、8月の完了を目指して残りの椅子を製作する予定です。実際に椅子の製作に携わった生徒はもちろん、他の生徒の方々にも県産材に親しんでもらい、循環型林業の「木を使う」を体験していただければと思います。



パネルソーを使用したスギ板の切断作業



組み立て作業



完成した椅子

①防鳥網「らくらく設置 3.5」の設置研修を行いました！

令和3年7月6日(火)に、津和野町にて防鳥網「らくらく設置 3.5」の設置研修を実施しました。「らくらく設置3.5」とは、高さ3.5m程度までの果樹等に、防鳥網を安価で手軽に掛け外しする方法です。簡素な構造で作業も簡単なので、果実等の実る時期が近づいたら網を掛け、収穫直前に外すなど、気軽に防鳥網を使うことができます。

研修は、当事務所の鳥獣担当の説明・指導のもと、農家の方と当事務所の農業部職員を対象に行いました。「らくらく設置 3.5」の方法を用いて、もうすぐ収穫期を迎えるスモモ畑に防鳥網を設置しました。実際に設置すると、地形や樹高などによって、スムーズな設置が困難な場面もありましたが、この技術を普及していく上での改善点や、現場に応じた臨機応変な対応などが見られ有意義な研修になりました。

本研修には他管内の鳥獣担当や津和野町・吉賀町職員も参加し、鳥害防除技術を学んだので、今後、関係機関と連携を図りながら、より鳥害を減らしていけるよう努めていきます。



作業風景



設置後のスモモ畑

②鹿足郡津和野町堤田集落において、サル対策研修会を開催しました！

令和3年7月11日(日)に、堤田公民館において「～ニホンザル、ツキノワグマの被害から地域を守るために～被害対策研修会」を開催し、当事務所の鳥獣担当が講師を務めました。当日は、20名の地域住民の方々に参加頂きました。研修会では、本地域で被害が目立つサルをメインに、基本的な生態や行動特性、対策技術について紹介しました。研修の最後には、質疑応答や意見交換が活発に行われました。また、研修後には実際に現地確認を行い、サル対策として気をつけなければならない点や、サル被害の確認などを行いました。

現在当事務所では、「鳥獣被害ゼロ」を目指して鳥獣被害に強い集落をつくることに意欲のある集落・組織を、林業部と農業部が連携して直接支援しています。今回の研修会を契機とし、被害対策マップを作成して地域にフィードバックを行ったり、防護柵の効果的な設置等を推進することによって、地域住民が協力して農作物被害を軽減していけるよう支援を実施していきます。



研修会の様子



サルの被害

① 木材乾燥技術セミナーを開催しました！

令和3年8月27日（金）に益田合同庁舎にて木材乾燥技術セミナーを開催しました。人工乾燥材の出荷量UPのための技術修得を目指し、管内の製材工場職員の方々を中心に13名の出席がありました。

素材と乾燥材の動向についての講義では、令和2年はコロナウィルスの影響で製材工場や合板工場が生産調整を行ったため、素材消費量や製品出荷量が落ち込んだとの説明がありました。

木材乾燥の実務についての講義では、島根県中山間地域研究センターの村上主任研究員から含水率計を板材で使用する場合、板の後ろに空間を作らないと正しく計測できないという説明がありました。

また、乾燥機のメンテナンスについて、汚れた湿球温度計のガーゼの交換をまめに行うことで正しい湿度計測ができるという説明がありました。

県では高品質・高付加価値製品の出荷拡大を目指しており、今回の研修がその一助になれば幸いです。



素材・乾燥材の動向についての説明



含水率計の適切な使用方法の説明

①益田翔陽高校の2年生が農林大学校林業科を見学しました！

9月10日(木)に益田翔陽高校の2年生12名が飯南町にある島根県立農林大学校林業科を訪問し、施設見学と学校での授業の一部を体験しました。午前中は学校の説明を受けた後、学生寮と実習棟を見学しました。

午後からは農林大講師の指導の下、チェーンソーを使った丸太切り体験と、林業機械(フォワーダ・スイングヤード)操作体験、ドローン操縦体験を行いました。丸太切り体験では縦横に設置した丸太を切る作業を体験し、生徒からは「振動に慣れるまでが大変だった。縦に設置した丸太を切るほうが難しかった」との感想がありました。

また、近年、森林調査などで使用され始めているドローンの操縦では、手元のタブレットでカメラ映像を確認しながらドローンを高い位置まで飛ばしました。ドローンは何も操作しなくてもその場でホバリングするため、生徒からは想像したよりも操作が簡単との声がありました。今回の農林大での体験を通じて、生徒たちは林業や農林大に理解を深めている様子でした。



フォワーダ操作体験



ドローン操縦体験



丸太切り体験

②津和野高校の1年生が林業を体験しました！

9月14日(火)に津和野高校の1年生7名が町内の間伐現場で津和野林産(株)の社員さんの指導の下、林業の作業を体験しました。丸太切り体験では初めて使うチェーンソーに最初は戸惑いながらも徐々にコツを掴み、上手な生徒は3cm程度の薄さにも挑戦していました。また、伐倒体験では講師指導のもと、立木に見立てた丸太に受け口と追い口を作って伐倒を行いました。ツル部分が切れてしまったり、追い口が受け口よりも下に入ってしまったりと苦戦していましたが、どの生徒も最後は伐倒まで完了しました。体験した生徒からは「思ったよりも体力と正確さが必要だと感じた」との感想がありました。

また、林業機械操作体験では、生徒がはい積用機械のグラップルに乗り、走行と丸太を掴んで移動する作業を体験しました。生徒からは「機械が大きく最初は怖いと思ったが、操作に慣れると楽しかった」との感想がありました。

今回の学習を通して林業に興味を持っていただければ主催者として幸いです。



丸太切りの様子



伐倒体験の様子



機械操作体験の様子

①「クマから身を守る方法」研修会が開催されました！

11月12日(金)に益田市立桂平小学校において「クマから身を守る方法」研修会が開催され、当事務所の鳥獣担当職員が講師を務めました。この研修会は益田市二条地区の自治組織「二条里づくりの会」が主催し、全校児童16人と地元住民11人が参加しました。

研修会では、クマの生態やクマが人里に降りてくる理由、クマに出合った時の対処法などを解説しました。解説後には、クマに出合った時の対処法を、小学生に実践してもらいました。参加した小学生からは、「もしクマに合ったら習った方法を使ってやり過ごしたい」「初めて聞く内容や、忘れていた内容もあったため、定期的に復習することが大事だと感じた」などの声がありました。

今年はカキの実りが非常によく、カキを求めてクマが人里付近に出没している事例が多いです。実をもいだり木や枝を切ったりすることで、クマを人里に寄せつけないことが重要です。まずは、クマに合わないための対策をしっかり行いましょう。



研修会の様子



対処法を実践

②日野デュトロ「吉野エディション」実演研修会を開催しました！

11月18日(木)に津和野町柳村地内においてPOLO、松原自動車、清光林業が共同開発した日野デュトロ「吉野エディション」の走行実演会を開催しました。当日は、市町の林務担当者や森林組合、素材生産業者など多くの林業に関わる方々が参加し、実際に林道を運転してもらいました。参加者の方からは、「傾斜のある箇所でも重心が低く安定している」「ぬかるんだ道でも滑りにくい」など好評の声がありました。

今回の研修は、生産性の向上に資するものを紹介するという主旨で開催しました。その結果、現場によっては多少の悪路や傾斜でもフォワーダの代わりに今回のダンプを使用し運材できることが見込める内容になり、有意義な研修となりました。



デュトロダンプ説明



林道を走行

① 益田翔陽高校2年生が治山施設と間伐現場を見学しました！

10月22日（金）に益田翔陽高校生物環境工学科2年生12名を対象に森林・林業木材産業学習講座を開催しました。本講座は地域の林業について理解を深めるため毎年同学科2年生を対象に開催しており、今年は座学と津和野町内の治山施設と間伐現場を見学しました。

治山施設見学では、令和2年豪雨で被災した箇所谷止め工の工事現場を見学しました。えん堤を造るためのコンクリートを固める作業を間近で見た生徒からは、「普段は見られない山で行われている工事によって生活の安全が守られていることが分かった」との感想がありました。

また、高津川森林組合の利用間伐の現場では、既に農林大でハーベスタシミュレータの操作体験をしていた生徒から、実際のハーベスタによる伐倒・造材作業を行うオペレータの正確な操作と機械の迫力に驚いたとの声がありました。

見学した生徒からは将来林業に就きたい思いがより強くなったとの感想もあり、来年以降も継続して本講座を開催する予定です。



谷止め工見学



間伐現場見学



ドローン操縦体験

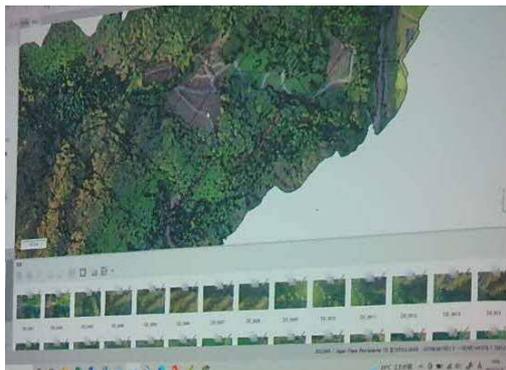
② 益田高校の1年生が林業について学びました！

11月10日（水）に益田高校の1年生12名を対象に高津川森林組合で林業学習講座を開催しました。当日は高校で取り組んでいる課題探求活動で林業分野を選択した生徒が参加しました。

午前中は森林組合事務所で座学を行い、植え付けや間伐、地籍調査やドローンによる測量について学びました。林業分野でドローンの導入が進んでおり、空撮写真から作られた森林の3Dモデルに興味深そうに見学していました。

午後からは美都町の現場で間伐作業の見学とグラップルの操作体験をしました。現場で動いているハーベスタを見た生徒からは、「機械の値段はいくらか？」「アタッチメントはこの国製のものか？」との質問がありました。

生徒の皆さんは来年度以降も継続して課題探求活動を行う予定であり、今回の経験を生かしてほしいです。



森林の3Dモデル



グラップル操作体験

③ ますだ産業祭で林業をPRしました！

11月14（日）にますだ産業祭が2年ぶりに開催されました。昨年はコロナ禍のため中止となりましたが、今年は規模を縮小し万葉公園で開催されました。今年は林業の仕事をPRするためハーベスタシミュレータとチェーンソーVR体験、ハーベスタ展示を実施しました。

当日は小学生から高校生までの生徒を中心に約40人の来場者がありました。ハーベスタシミュレータ体験では実機と同じ手元の操作レバーで伐倒・造材・玉切り作業を体験しました。子どもたちは最初はたくさんのボタン操作に慣れない様子でしたが、徐々にゲーム感覚でスイスイと覚えていました。

チェーンソーVR体験ではVRゴーグルを装着し、伐倒作業を体験しました。体験者はVR映像に驚きながらうまく受け口と追い口をつくり伐倒まで行っていました。

展示ブースではケスラ社製のハーベスタを展示し、来場した子どもたちに人気を博しキャビンの中で楽しそうにレバー操作をしているのが印象的でした。



チェーンソーVR体験



ハーベスタ展示

④ 益田翔陽高校の3年生が間伐現場を見学しました！

今年度、高校の課題研究で林業・木材加工について取り組んでいる益田翔陽高校3年生の生徒3名が12月1日（水）に（株）美都森林の間伐現場を見学しました。伐採した木を架線を使用し集材する高性能林業機械「スイングヤード」を間近で見て、800kg以上ある重たい木が簡単に引っ張られる様子に驚いていました。

（株）美都森林の斎藤総本部長からは、スイングヤードで使用される従来の鉄のロープ（ワイヤロープ）より軽量の繊維ロープ（ナイロンロープ）により、作業効率が向上できるという説明を受け、実際に触れて違いを確認していました。

3名の生徒は12月に実施される課題発表に向けて木製棚の製作に取り組んでおり、山からどのように木が切り出されているか見ることができて良かったとの感想がありました。



集材の様子



繊維ロープの説明

⑤ 益田翔陽高校の3年生が県産材を使用した木製棚と扉を製作しました！

益田翔陽高校生物環境工学科3年生の生徒3名が高校の課題研究で林業・木材加工について学習する活動の一環で、県産材を使用した木製棚と扉を製作しました。

林業に理解を深めることと、県産材のPRを目的に高校の農場で飼育しているアイガモのエサ入れ用の棚と保管倉庫の扉を製作しました。夏から取り組みを始め、（株）高橋建設の協力を得て、生徒が棚のCAD設計と製図から行い、調達した県産スギ材を加工・組み立てし製作しました。

製作にあたって生徒は管内の木材生産現場と製材工場を見学し、木材の生産から加工までの工程も学習しました。

製作に携わった生徒の中には来年から大学や専門学校へ進学し木造建築を学ぶ方もおられ、今回の経験を生かしてもらいたいと思います。



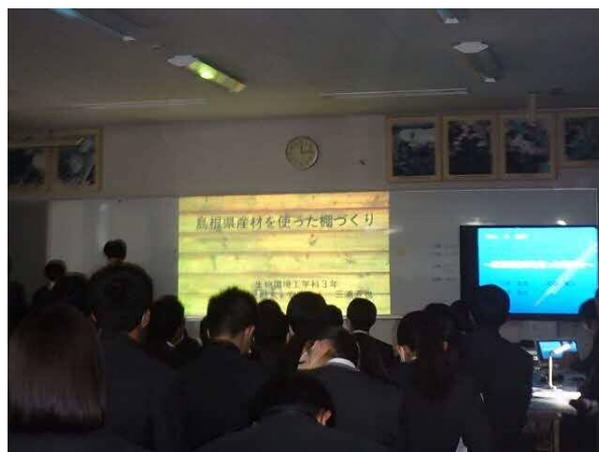
保管倉庫の扉作製



接着作業の様子



完成した棚



課題発表会の様子